

物騒な詐欺事件が話題になっているが、私も昔、経験したことがある。

息子が大学を卒業して下宿を引き払い帰ってきた時のこと。汚れた布団を押し入れに入れるのはためらわれ、処分に困っていた。

そんな時「布団の洗濯をします」という電話がかかって来た。そんなに都合の良い話があるわけがないから、私が勝手にそう思ったのだろう。

「えっ、来て下さって布団を丸ごと洗濯して下さいませんか」

「はい」。頭の中で、ワゴン車の中に大きな箱型の洗濯機がおさまっていて、その中に布団を入れ、丸ごと洗濯をする図が広がった。

「では、その機械を車で持ってくるのですか」「はい」「お願いします」と、話は決まった。

だが、前日になって「機械はお宅の中に持ち込んで、中で作業をします」との電話。

「そんな大きな機械を家に入れるのですか？ 我が家は二階なのですが……」

「大丈夫ですよ。では、約束通り伺います」と、一方的に電話は切れた。

話が違うじゃない、困った！

そこで、我が二世代住宅の一階に住んでいる夫の両親に訳を言って、一緒にいてくれるよう頼んだら、二人とも快く引き受けてくれた。

その日になった。午前十時、約束の時間通り三十前後の男性が大きな箱を持って玄関の前に立っていた。

「あのお、機械は？」

「これです」と言いながら、開け放たれた玄関から中に入って靴を脱いで上がり込んできた。舅姑は二階で待っている。男は大きな箱から機械を取り出した。

「布団を丸ごと洗う機械じゃないのですか」私が言うと、

「この機械で汚れを吸い取るんです」

機械はどう見ても大きな掃除機にしか見えない。

「あんだ、布団を洗濯するって……掃除機を売りに来たの」

普段は上品な姑が、人が変わったように蓮っ葉に青年に立ち向かった。

「ああ、これは掃除機ですけど、中に水が入っていて、布団のほこりなども吸い取るように出来ています」

「なんだ、掃除機なんかいらねえよ」と舅。

「お願い、帰って！」私は懇願した。